

“新春特別号”

げんき通信

現代病を救う「田七人参」のお話

カタカナの「ニンジン」は野菜、漢字の「人参」は生薬を意味します。世界各地にはいくつもの人参が知られていますが、なかでも田七人参は高麗(朝鮮)人参や西洋人参(アメリカ人参)と共に世界三大薬用人参と言われています。

これらは植物分類学的には同じウコギ科Panax属植物を基原としますが、高麗人参が朝鮮半島、中国東北部などの比較的寒冷地に産するのに対し、田七人参は中国南部(雲南省、広西壮族自治区)のベトナム国境に近い石灰岩地帯に生育します。

高麗人参に比べ田七人参の歴史は浅く、中国の文化大革命が終了した1970年代後半になってからようやく日本に導入されるようになりました。もともと、中国では「金不换(お金に換えられない)」と言われるだけあって生産量も少なく、高貴性、希少性が故

に「幻の妙薬」ということで、それまでは中国政府が門外不出の措置をしていたからです。

ではなぜ田七人参が今脚光を浴びるのでしょいか?

中国明代に書かれた「本草綱目」には田七人参に関して止血、活血化瘀(血液の流れのよどみを改善)、止痛、消腫の四種の効用があると書かれています。「田七補血、人参補気」と言つように、高麗人参が気力、精神力、免疫力を養うのに対し、田七人参は血を補う、即ち、血液に関して滋養効果をあらわすとされています。血液を浄化してサラサラに



「田七人参」



《野中烏犀園：野中源一郎氏》
創業1626年の老舗「野中烏犀園」(ウサイエン製薬株式会社)代表取締役社長。九州大学薬学部の助教授を経て、13代目 野中家当主。

する臓器は肝臓ですから田七人参は肝臓の働きを良くするというわけです。

さらにドロドロした血液がきれいになれば血液を送り出すポンプの役目の心臓の負担が軽くなって血圧も下がるというわけです。このことは高麗人参を服用すると血圧が上昇することと大きく異なります。戦後、日本では食生活の変化に伴い、高血圧症、冠状動脈疾患、狭心症、心筋梗塞などの生活習慣病、慢性肝炎、肝硬変などの肝臓障害や血流の停滞に伴う頭痛、肩こり、腰痛、冷え性などいわゆる現代病が増加しています。最近の臨床研究により田七人参を服用するとコレステロール、中性脂肪やGOT、GPTの値が低下することが報告されています。年齢とともに生じる血液のドロドロはこれらの値が高いのが原因ですから、数値が下がれば血液の流れが良くなって様々な症状が改善するのは当然のことです。

田七人参の有効成分は高麗人参と同じサポニンですが、含量が7〜11%と非常に高いのが特徴です(高麗人参：4%)。また高麗人参と同一のサポニンを含んでいますので、血圧が高い人向けの滋養強壮効果も期待できます。

あけまして
おめでとぅ
ごぞいませ

笑顔!

明るくて

2017年 正月
今年もよろしく
お願いいたします。
スタッフ一同

処方せんはぜんぶ「くぼ薬局」におまかせください。すべての病院・医院の処方せんを受け付け責任を持って調剤いたします。

あなたのまちのくすり箱

くぼ薬局



●中町店 ☎26-2817 FAX 28-0802 ●木原店 ☎24-2233 FAX 24-4227 ●中の小路店 ☎24-2882 FAX 24-4503

●西与賀店 ☎22-2311 FAX 29-2777 ●北茂安店 ☎0942-89-1777 FAX 89-1888 ●医大通り店 ☎32-1133 FAX 21-1344

●本部：県庁通り店 ☎23-4550 FAX 26-8585